

令和5年度企画展 I

# 井出先生の写真館

キミ、シニタマフコトナカレ

4月29日(土)～7月9日(日)

開館時間 9:00～17:00 ※入館は16:30まで

休館日 毎週月曜日・祝日の翌日

※月曜日が祝日の場合は  
開館し、翌日休館



## 展示解説会

5月6日(土)

6月10日(土)

7月1日(土)

各回11:00～

申込不要

明治43年に開業した袖ヶ浦市横田の井出医院。

カメラが趣味だった初代と2代目の院長は、戦時中、出征する青年たちの記念写真を撮り続けました。

2人の先生が残した写真に刻まれた、いのちの物語をご覧ください。

## 袖ヶ浦市郷土博物館

入場無料

〒299-0255 千葉県袖ヶ浦市下新田1133 (袖ヶ浦公園内)

TEL 0438-63-0811 FAX 0438-63-3693 E-Mail: sode65@city.sodegaura.chiba.jp

時は昭和。戦時中の君津郡中川村。

次々と戦地に送り出される若者たちと、見送る家族。彼らを撮影する先生。それぞれが、どんな思っていたのだろう。どんな想いを残したのだろう。

## I 井出医院と歴代院長



初代院長・井出伊朝美

明治43年の開業から、村のお医者さんとして、地域の医療を支え続けた井出医院。長野県出身の伊朝美先生を初代に、2代目・全先生、現院長の3代目・哲先生へと引き継がれています。

残された写真等から、井出医院の院長たちの足跡をたどります。



## II 戦地へ向かう若者たち、送る村人たち

息子であり、夫であり、父であった青年たちは1枚の召集令状により、戦地へと駆り出されていきました。

2人の井出先生は、出征する青年たちの記念写真を撮り続け、その数は、200人以上にのぼりました。

送られる人送る人、それぞれの交錯する思いが、写真を通して伝わります。



## III 葬送の風景

出棺から野辺送り、埋葬までの記録写真。そこにも先生の、命を見つめるまなざしがありました。



## IV 戦地から帰ったもの

博物館には、軍服など兵士が使っていたものが、たくさん寄贈されています。それらは運よく生きて帰れた人の持ち物もあれば、帰れなかった持ち主の遺品として届けられたものもあります。

## V 車夫の青年のこと

井出医院で、往診の人力車を引く車夫として働いていた青年・勝間金象さん。車をひいたポーズの写真と軍服姿の写真、出征前の記念写真が残っています。

懸命に働いていた金象さんでしたが、戦地へ赴いたのち、生きて家族のもとへ帰ることはありませんでした。井出家には、今でも車夫の半纏と提灯が保管されています。



### ー 関連イベントー

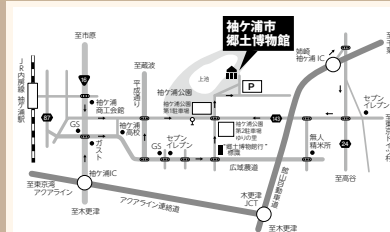
#### 「こんな本読んでたんだね、戦時中の子どもたち」

『少年倶楽部』など、普段は見ることのできない戦時中の雑誌を手にとって読んでみましょう。

**日時** 5月5日(金) 午前10時から12時  
午後1時から3時

**場所** 郷土博物館 研修室  
(申込不要、時間内は自由に入退室できます。)

「一路、ノムハンの戦場へ」の裏書がある写真



#### ■アクセス

**電車・バス**  
JR内房線 袖ヶ浦駅から日東バス②乗場  
平川行政センター・のぞみ野  
バスターミナル行「袖ヶ浦公園」下車  
※土・日・祝日は東京ドイツ村行

#### ■自家用車

東関東自動車道館山線 姉崎袖ヶ浦ICから約20分  
アクアライン連絡道 袖ヶ浦ICから約15分